

文化庁メディア芸術祭石垣島展「ひかりきらめくイマジネーション」 実施内容のご案内  
～世界有数の美しい星空を持つ街での屋外上映、南国のまちなかを中心に展開する芸術と自然、科学が  
織りなすメディアアートの展示等、石垣島ならではの展示や上映を展開

■ 作品を中心とする見どころの紹介は別紙1を、会期中の催事紹介は別紙2をご覧ください

文化庁メディア芸術祭石垣島展「ひかりきらめくイマジネーション」では、11月29日(水)～12月17日(日)までの19日間にわたり、石垣市民会館をメイン会場に石垣島各地を会場として、国内外の優秀な作品を紹介します。オープニングとなる11月29日(水)には、石垣島の日没(17:54)とともに第20回文化庁メディア芸術祭受賞作品である『映画「聲の形」』を中心市街地にある新栄公園を会場に、翌30日(木)にも同会場で『この世界の片隅に』などの長編アニメーションを世界有数の美しい星空のもと、屋外上映します。市内各地に展開する会場では、scope+橋本典久による『life-size』や、チームラボの『百年海図巻 [上映時間: 100年]』、落合陽一の『コロイドディスプレイ』などさまざまな現象の美しさや驚きを科学によって象ったメディアアート作品などが、豊かで多様な自然環境を持つ石垣島ならではの展示を展開、第20回文化庁メディア芸術祭受賞作品を中心とした優秀作品を展示します。沖縄県初、そして離島初、国内最南端のメディア芸術の総合展示をぜひお楽しみください。

□ 開催概要

【タイトル】文化庁メディア芸術祭石垣島展「ひかりきらめくイマジネーション」

【会期】2017年11月29日(水)～12月17日(日)

【開催時間】13:00～19:00 (会期中無休) 土曜・日曜のみ 10:00～19:00

【会場】石垣市民会館 特設会場(沖縄県石垣市浜崎町1丁目1-2)、新栄公園(浜崎町)  
ゆんたく家(ユウグレナモール内)、石垣港離島ターミナル(美崎町)  
ホテルエメラルドアイランド(美崎町)、伊原間会場(石垣市伊原間119番地)

【屋外上映プログラム開催時間】 会場＝新栄公園(石垣市浜崎町)

11月29日(水)	17:30	文化庁メディア芸術祭石垣島展開会式
	17:54	(石垣島日没時間)上映開始
		『映画「聲の形」』第20回アニメーション部門優秀賞
		『父を探して』第20回アニメーション部門優秀賞
11月30日(木)	17:54	(石垣島日没時間)上映開始
		『この世界の片隅に』第13回マンガ部門優秀賞(原作)
		『ジョバンニの島』第18回アニメーション部門優秀賞

【入場料】無料

【広報窓口】文化庁メディア芸術祭石垣島展広報事務局(FM いしがきサンサンラジオ内)

担当:花城 電話: 0980-88-6530 Mail: press@mediaarts-ishigaki-jima.okinawa

報道向け内覧会を初日11月29日(水)に予定しております。詳細はメールにてお問い合わせください。

【公式ホームページ】<http://mediaarts-ishigaki-jima.okinawa/>

【主催】文化庁 【共催】石垣市

【協力】キャンノンマーケティングジャパン株式会社 八重山島材研究モッコク会 株式会社ネイキッド

文化庁メディア芸術祭とは

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。1997(平成9)年度より毎年優秀な作品を選出し、受賞作品展を開催しています。そして、2002(平成14)年度より国内の様々な都市にて、受賞作品による展覧会を実施、現在における多様な表現を紹介しています。2017年11月29日(水)より12月17日(日)まで開催する石垣島展では、「ひかりきらめくイマジネーション」をテーマに、第20回(2017(平成29)年)の受賞作品をはじめ、各回の受賞・入選作や作家による最新の作品を独自に企画し、広がりつづけるメディア芸術を紹介します。

展示・上映予定作品 2017年11月22日現在  
本展のポイントや見どころは別紙1を参照してください

合計 50 作品

・長編上映

『君の名は。』 新海誠 第20回アニメーション部門大賞  
『父を探して』 Alé ABREU 第20回アニメーション部門  
優秀賞  
『映画「聲の形」』 山田尚子 第20回アニメーション部  
門優秀賞  
『ジヨバンニの島』 西久保瑞穂 第18回アニメーション  
部門優秀賞  
『この世界の片隅に』 片渕須直(監督) こうの史代(原  
作) ※原作が第13回マンガ部門優秀賞を受賞

・立体展示

『モルフォタワー』 児玉幸子 第5回アート部門大賞受  
賞作家作品  
『Vomoder』 クワクボリョウタ 第7回アート部門大賞受  
賞作家作品  
『Pokémon GO』 『Pokémon GO』制作チーム 第20回  
エンターテインメント部門優秀賞  
『プラモデルによる空想具現化』 池内啓人 第17回エン  
ターテインメント部門優秀賞  
『10番目の感傷(点・線・面)』 クワクボリョウタ 第14回  
アート部門優秀賞  
『life-size』 scope+橋本典久 第8回アート部門奨励賞  
『コロイドディスプレイ』 落合陽一 第20回エンターテイ  
ンメント部門審査委員会推薦作品の作家による作品  
『nubot』 林智彦/千房けん輔/堀尾寛太/anno lab  
/徳井綾 第16回エンターテインメント部門審査委員  
会推薦作品  
『百年海図巻[上映時間:100年]』 チームラボ 第14回  
アート部門審査委員会推薦作品

・短編上映

『The Wound』 Anna BUDANOVA 第18回アニメーシ  
ョン部門大賞  
『Rhizome』 Boris LABBÉ 第19回アニメーション部門  
大賞  
『A Love Story』 Anushka Kishani NAANAYAKKARA  
第20回アニメーション部門優秀賞  
『Among the black waves』 Anna BUDANOVA 第20  
回アニメーション部門優秀賞  
『岡崎体育「MUSIC VIDEO」』 岡崎体育/寿司くん 第  
20回エンターテインメント部門新人賞  
『ムーム』 堤 大介/ロバート・コンドウ 第20回アニメ  
ーション部門新人賞  
『I Have Dreamed Of You So Much』 Emma  
VAKARELOVA 第20回アニメーション部門新人賞  
『Rebellious』 Arturo “Vonno” AMBRIZ / Roy AMBRIZ  
第20回アニメーション部門新人賞

・マンガ部門 第20回受賞作品

『BLUE GIANT』 石塚真一 第20回大賞  
『総務部総務課山口六平太』 高井研一郎/原作:林律  
雄 第20回優秀賞  
『未生 ミセン』 ユン・テホ/訳:古川綾子/金承福 第  
20回優秀賞  
『有害都市』 筒井哲也 第20回優秀賞  
『Sunny』 松本大洋 第20回優秀賞  
『応天の門』 灰原薬 第20回新人賞  
『月に吠えらんねえ』 清家雪子 第20回新人賞  
『ヤスミン』 畑優似 第20回新人賞

・マンガ部門 歴代大賞作品

『かくかくしかじか』 東村アキコ 第19回大賞  
『五色の舟』 近藤ようこ/原作:津原泰水 第18回大  
賞  
『ジョジョリオン —ジョジョの奇妙な冒険 Part8—』 荒木  
飛呂彦 第17回大賞  
『闇の国々』 Benoit PEETERS / François SCHUITEN  
第16回大賞  
『土星マンション』 岩岡ヒサエ 第15回大賞  
『ヒストリエ』 岩明均 第14回大賞  
『ヴィンランド・サガ』 幸村誠 第13回大賞  
『ピアノの森』 一色まこと 第12回大賞  
『モリのアサガオ』 郷田マモラ 第11回大賞  
『太陽の黙示録』 かわぐちかいじ 第10回大賞  
『失踪日記』 吾妻ひでお 第9回大賞  
『夕風の街 桜の国』 こうの史代 第8回大賞  
※ 関連作品として『『この世界の片隅に』 こうの史代  
第13回優秀賞作品』もあわせて展示、および長編映画  
『この世界の片隅に』を上映(前掲)  
『カジムヌガタイー風が語る沖縄戦—』 比嘉遼 第7回  
大賞  
『セクシーボイス アンド ロボ』 黒田硫黄 第6回大賞  
『F氏の日常』 福山庸治 第5回大賞  
『バガボンド』 井上雄彦/原作:吉川英治 第4回大賞  
『アイム ホーム』 石坂啓 第3回大賞  
『坂本龍馬』 黒鉄ヒロシ 第2回大賞  
『マンガ日本の古典』 株式会社中央公論社 (全32  
巻) 第1回大賞

**文化庁メディア芸術祭石垣島展「ひかりきらめくイマジネーション」の展示内容について  
～島の日没からはじまる長編アニメーションの屋外上映、西表島に向かうターミナルには巨大な『リアルポケストップ』が登場、里山里海の古民家での展示など、ひかりきらめく石垣ならではの展示や上映を展開**

「メディア芸術」は、旧来の文学や音楽、美術とは別に、「映画、マンガ、アニメーション及びコンピュータその他電子機器等を利用した芸術」として、先の文化芸術振興基本法に定義されました。それら新しいメディアの上で生まれる芸術表現を顕彰し、広く展覧するために1997年から始まったのが、文化庁メディア芸術祭です。

日本が得意とするこの「メディア芸術」の魅力を全国各地の人々に送り届けることを目的に地域で開催されている本地方展の舞台となる石垣市は、澄んだ夜空と珊瑚礁の海が美しい島であり、自然の豊かさとその恵みによって大洋を越え集った人々が脈々と営みを続ける伝統を背景とした日本最南端の都市でもあります。古来より人々は星空の光に思いを馳せ、その探求心により、ついには光を操る表現として、メディア芸術を生み出しました。昼のサンゴ礁を美しく照らす光、夜の豊かな星空、天然の光あふれる石垣島を舞台として、「ひかりきらめくイマジネーション」というテーマのもと、メディア芸術の創造の光を照らしてゆきます。

満点の空の下での屋外上映など、多くの人々を魅了する島の風土の中で展開する展示は、ともすればテクノロジーや都市の閉じた世界に寄って想起されがちな表現たちを解き放ち、新たな感動を喚起させることでしょう。

**メイン会場を中心に豊かな風土をもった島内各地で展開する展示**

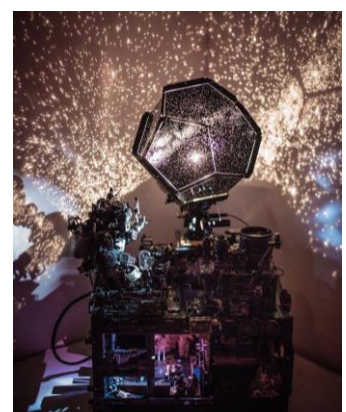
石垣市民会館に特設する展示会場をメインに、島内各地の会場で展示や上映を実施する本展では、文化庁メディア芸術祭の受賞・入選作品や受賞作家の作品の中から、石垣島展のテーマ「ひかりきらめくイマジネーション」から彷彿とする、さまざまな現象がみえる自



『モルフォタワー』 児玉幸子  
第5回アート部門大賞受賞作家作品  
展示会場＝石垣市民会館特設会場  
© Sachiko Kodama



『Vomoder』 クワクボリョウタ  
第7回アート部門大賞受賞作家作品  
展示会場＝石垣市民会館特設会場  
© Ryota Kuwakubo Tomohiro Okada



『プラモデルによる空想具現化』  
池内啓人 第17回エンターテインメント部門優秀賞  
展示会場＝石垣市民会館特設会場  
© 池内啓人

自然界の美しさや驚きを表現した作品群の展示や、世界有数の美しい星空を持つ街での屋外長編上映など、自然が織りなす光の豊かさと、人間が光から創造したさまざまな表現を、光が豊かな風土を舞台に自ら「発見」できる作品を紹介します。そして、メディアアートから、マンガ、映像、アニメーション、ゲームまで多彩な表現をご体験いただけます。

**見どころの紹介**

文化庁メディア芸術祭石垣島展では、本展テーマ「ひかりきらめくイマジネーション」のもと、3つのポイントの特徴に展示や上映を展開します。(見どころの詳細は次頁)

**ポイント1：** 沖縄・八重山の青少年や世界からのインバウンド客が感動を得るために「未来への希望や可能性を実感できる」作品展示を実施。

**ポイント2：** 世界有数の美しい星空、独自の風土、石垣島が持つ特有の環境や文化資源を活かすことにより、作品に対する感動をより喚起される、他ではできない石垣ならではの公開を実施。

**ポイント3：** 本年の文化庁メディア芸術祭受賞作品展後の開催として、第20回受賞作品に触れることができる展示を実施。

## ポイント1: 沖縄・八重山の青少年や世界からのインバウンド客が感動を得るために「未来への希望や可能性を実感できる」作品展示を実施。

人口4.9万人の離島である石垣島は、今年は130万人もの入域観光客が予測され、特に外国(主に東アジア)から30万人以上の来訪者が予測されるように、日本の観光において特に高い成長が続く特徴をもっています。また、社会増、自然増が続く、日本でも類いまれな離島として発展を続けています。これらの成長を持続的なものとするため、創造的な島づくりの取り組みを開始しています。

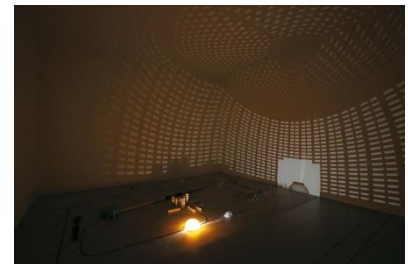
その一歩として、日本珠玉のメディア芸術を島で展示することにより、来訪者そして次世代の島人ともどもにとり「未来への希望や可能性を実感できる」魅力ある文化的体験とすることをポイントとしております。このように本展は、新たな島の魅力としてのアートによる交流拡大に向けた取り組みの先鞭となるもので、沖縄県においても初開催となるものです。

そのため、これまで20年の文化庁メディア芸術祭受賞作品等の中から、世代や背景をこえて感動でき、展示可能な作品を選び、メディア芸術への理解を促進させます。

### 主な展示予定作品

#### 『10番目の感傷(点・線・面)』クワクボリョウタ 第14回アート部門優秀賞 展示会場=ホテルエメラルドアイル石垣島

光源が備えられた鉄道模型が、床に並べられた日用品の間をゆっくりと移動しながらその影を映し出します。部屋の壁や床、天井に映し出されたモノの影は、電車から見ている風景のように移り変わりながら観者を包み込む。没入・鳥瞰、既視感・未視感といった、相反する体験を交互に繰り返す映像。鑑賞者は知覚を研ぎ澄まし、その体験を語り合うことでしょ。



© 2010 Ryota Kuwakubo

#### 『百年海図巻 [上映時間: 100年]』チームラボ 第14回アート部門審査委員会推薦作品 展示会場=ゆんたく家

上映時間が100年の映像作品。WWFの2009年に発表した予測に基づき、一世紀後に向け上昇してゆく海面を2109年までの100年間実寸の時間で上映し続けます。2009年に生まれたこの映像は、生まれた瞬間から現実の海とパラレルな世界になります。3次元空間上に立体的に構築された波を、チームラボの超主観空間によって映像化した作品です。



©チームラボ株式会社

#### 『nubot』林智彦/千房けん輔/堀尾寛太/anno lab/徳井綾 第16回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品 展示会場=石垣市民会館特設会場

東京と福岡に離れて活動する nuuo 社の会議用に開発されたロボット『nubot』。スマートフォンを人形にはめこむことで、コミュニケーション・サービス・ツール skype や Google+でつないだ遠方にいる人が、まるでここにいるかのように会話やアクションを楽しむことができるアイテムを発明。新しいビデオチャット生活のあり方を提示しました。



© 林智彦

## ポイント2: 世界有数の美しい星空、独自の風土、石垣島が持つ特有の環境や文化資源を活かすことにより、作品に対する感動をより喚起される、他ではできない石垣ならではの公開を実施。

テーマ「ひかりきらめくイマジネーション」に込めましたように、石垣島には世界有数の美しい星空と、国際的に評価される珊瑚礁、豊かな実りを育む常に温暖な気候、黒潮の流れを通じた古来からの人々の行き来を反映した営みが織りなす、厚みのある環境と文化を有しています。深い創造性や先端的な科学技術によって表現されたメディア芸術と、島の風土が展示や上映で重なりあうことを通じて、作品に対するより一層の感動、そして、アートによる島の地域創生や次の世代に対する学びの可能性を喚起していきます。また、島内の集落の民家を用いた展示や、市民会館特設会場での島内産木材を用いたアクセント、高校生による外国語による会場案内など、石垣市初の大規模な芸術祭の開催の機会を活かした、これからの文化芸術による地域創生の可能性にチャレンジします。

主な展示・上映予定作品

『life-size』 scope+橋本典久 第8回アート部門奨励賞

展示会場＝石垣市民会館特設会場

人間と同等の大きさまで拡大された昆虫の写真展示。翅の細部や鱗粉など肉眼では見えない部分もリアルに浮かび上がり、造形の美しさや多様性に触れることができる。自然に生きる生物と対等な立場で向かい合うことが、私たちをとりまく自然への新たな視点を生み出す。日本各地の昆虫のほか、石垣島に生息する昆虫たちの姿も展示されます。

【関連企画】12月2日(土)／3日(日)に、作家による立体工作ワークショップ「プラモ虫を作ろう！」を開催します。詳細は、別紙2をご参照ください。



©加藤健



©この史代・双葉社／『この世界の片隅に』製作委員会

『この世界の片隅に』 片瀬須直(監督) こうの史代(原作)

第13回マンガ部門優秀賞(原作)

屋外上映会場＝新栄公園 11月30日(木) 17:54(石垣島日没時間)

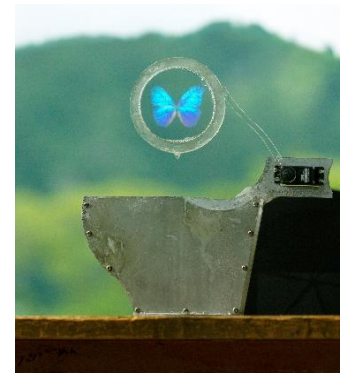
原作者の代表作となった『夕風の街 桜の国』(第8回マンガ部門大賞)の第2弾ともいべき作品を映画化した、劇場アニメーション。戦中の広島県の軍都、呉を舞台にした家族ドラマ。広島の漁師町に育ち絵を描くことが好きな浦野すずが主人公。呉の高台の町に住み海軍で働く北條周作へ嫁ぎ、新しい家族、新しい街、新しい世界に戸惑いながらも一日一日を確かに健気に生きていく物語。

『コロイドディスプレイ』 落合陽一

第20回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品の作家による作品

展示会場＝伊原間会場

海辺の里山集落の古民家に展示されます。柱を背景に、蝶々の映像がシャボン膜に浮かんでいます。映像と物質性の探求の末に数 $\mu\text{m}$ の膜の上に映された蝶は時におぼろげで時に艶やかです。これは超音波の周波数によって極薄のシャボン膜を微細に振動させることで、映像の投射を可能としたものです。光を乱反射させ質感の変化を生み出すため、反射し光る映像と液体が時間の経過と空間の移ろいを自然景観の中でメディア表現へと昇華します。



©落合陽一

**ポイント3： 本年の文化庁メディア芸術祭受賞作品展後の開催として、第20回受賞作品に触れることができる展示を実施。**

この9月、東京において第20回文化庁メディア芸術祭の受賞作品展が開催されました。その2か月後に開催される本展として、石垣島での展示テーマにふさわしい受賞作品等を展示します。また、第1回から第20回までのマンガ部門歴代大賞受賞作品を展示します。

主な展示・上映作品

『君の名は。』 新海誠 第20回アニメーション部門大賞

上映会場＝石垣市民会館

12月10日(日) 一回目 13:00 開始／二回目 16:00 開始

『秒速5センチメートル』(2007)や『言の葉の庭』(2013)など、意欲的な作品を数多く作り出してきた作者による劇場アニメーション作品。山深い田舎町の女子高生・宮水三葉(みやみずみつは)は、ある日、自分が東京の男子高校生になる夢を見ます。一方、東京で暮らす男子高校生・立花瀧(たちばなたき)も、山奥の町で自分が女子高生になっている夢を見ます。繰り返される不思議な夢と抜け落ちた記憶や時間から、三葉と瀧は自分たちが夢のなかで入れ替わっていることに気づきます。2人は戸惑いながらも現実を少しずつ受け止め、互いに残したメモを通し、ケンカをしながらも状況を乗り切っていきます。千年に一度の彗星来訪という出来事を舞台に、少女と少年がお互いを知り、求めあふ恋と奇跡の物語。世界の違う2人の隔たりとつながりから生まれる「距離」のドラマを、圧倒的な映像美とスケールで描き出しています。作者による緻密なロケーション設定とそれを支える確かな風景描写に、世界観を持った音楽が加わることで、ファンタジックな物語をより強いリアリティとともに表現しています。



© 2016 TOHO CO., LTD. / CoMix Wave Films Inc. / KADOKAWA CORPORATION / East Japan Marketing & Communications, Inc. / AMUSE INC. / voque ting co., ltd. / Lawson HMV Entertainment, Inc.

## 別紙1 文化庁メディア芸術祭石垣島展

2017年11月22日

石垣市 報道資料

『Pokémon GO』 『Pokémon GO』制作チーム  
第20回エンターテインメント部門優秀賞  
展示会場＝石垣港離島ターミナル(美崎町)  
“リアル”ポケストップが会期中、出現します。

位置情報を活用した、スマートフォン向けゲームアプリ。現実世界そのものを舞台として、地図上に出現する「ポケモン」を捕まえるために、プレイヤーは外出して徒歩で探索します。ポケモンが近くに現われるとスマートフォンが振動し、地図上に出現したポケモンをタップすることで、AR(拡張現実)機能によってカメラ越しの景色にポケモンが現われる。ポケモンは「モンスターボール」を投げることで捕獲できる。収集したポケモンを育成したり、ほかのプレイヤーと「ジム」でバトルを楽しんだりすることもできます。マップ上に現われる特定のスポット「ポケストップ」では、ポケモンを捕まえるために必要な道具モンスターボールなどを手に入れることができます。前作『Ingress』に続き、“Adventures on foot(歩いて冒険する)”という理念のもとに制作されました。



©2017 Niantic, Inc. ©2017 Pokémon. ©1995-2017 Nintendo/Creatures Inc. /GAME FREAK inc.

『映画「聲の形」』 山田尚子 第20回アニメーション部門優秀賞  
屋外上映会場(オープニング上映)＝新栄公園  
11月29日(水) 17:54(石垣島日没時間)

大今良時(おおいまよしとき)のマンガ『聲の形』(講談社、2013-14 連載)を映画化した劇場アニメーション。人と人とのコミュニケーションにおける、伝えることの難しさやそれゆえの尊さが表現されている作品。「退屈すること」を何よりも嫌う小学生のガキ大将・石田将也(いしだしょうや)は、転校生で聴覚障害を持つ少女・西宮硝子(にしみやしょうこ)と出会い、無邪気な好奇心を持ちます。彼女が来たことを機に、将也は退屈な日々からは解放されるが、硝子とのある出来事がきっかけで周囲から孤立してしまいます。それから5年の時を経て、2人は別々の場所で高校生へと成長します。しかし将也は、5年前の出来事以来固く心を閉ざして、生きる希望を見失っていました。人生を終わらせることを決意した将也は、5年前の「忘れ物」を返すために硝子のもとを訪れます。本格的な手話表現と現代の若者の内面を丁寧に描き、ひとりの少年が、少女や周囲の人たち、そして自分を受け入れていく物語が描かれています。



©Yoshitoki Oima, KODANSHA/A SILENT VOICE The Movie Production Committee. All Rights Reserved.

会期中には、ワークショップやシンポジウム、作品解説、協賛プログラムが石垣島内と沖縄県内各地で開催されます。

詳細は、別紙2をご覧ください。

作品写真は、電子メールにて、広報事務局までお問い合わせください。

電子メールアドレス [press@mediaarts-ishigaki-jima.okinawa](mailto:press@mediaarts-ishigaki-jima.okinawa)